



ASIAN  
BREAST  
CANCER  
PROJECT

## アジア・太平洋諸島系女性が知っておくべき乳癌の危険性

- アメリカ在住のアジア及び太平洋諸島系女性の主な死因は癌であり、そのうち最も多いのは乳癌です。
- アメリカの他の民族・人種と比べ、アジア・太平洋諸島系アメリカ人は癌が原因での死亡率が速いペースで増加しています。
- アメリカ在住のアジア・太平洋諸島系女性の浸潤性乳癌の発病率は1988年と2005年の間、毎年約1.2%増加しました。その数字はいまだ減少していません。
- 乳癌の死亡率はアメリカの他の人種においては減少しています。しかしアジア・太平洋諸島系女性においては増加しています。
- アジア・太平洋諸島系女性の乳癌の発病平均年齢は他の癌よりも若く、また腫瘍の発症も比較的早いのです。
- 母国に在住しているアジア・太平洋諸島女性に比べ、アメリカに住んでいる同女性のほうが乳癌の発症率が60%も高いです。
- アメリカに移住したアジア・太平洋諸島系女性のうち、移住してまもない女性より10年以上アメリカに住んでいる女性の方が乳癌発症の危険性が80%も高いです。
- アジア・太平洋諸島系女性は乳癌を発症しないという誤解があるにもかかわらず、アメリカ在住の南アジア系女性、それに加え日系・中国系アメリカ人三、四世女性の乳癌発症率は白人のアメリカ人女性の発症率に達している。
- アジア・太平洋諸島系アメリカ人女性の乳癌検診率はとても低いため、後期症状の確率が高くなっています。複数の研究によると40歳以上の同系女性は他のアメリカのどの人種・民族よりも規則的なマンモグラフィー検診率が低いという結果が出ています。またその率は低所得と最近移民してきたばかりの女性の方がさらに低いです。

追加資料、又は乳癌の医療施設や検診への紹介を希望される方は、電話番号**617-870-4056**又はEメールアドレス**abch2h@gmail.com**までご連絡ください。